

水道施設の耐震化について

山武水道では、以下の事業を計画的に行い自然災害等による被害を最小限にとどめ、被災した場合も迅速な対応を行い確実な給水を行うことが出来るよう努めております。

◇重要給水施設配水管耐震化(平成27～41年度)

災害時に対策本部となる行政機関や主要病院等の重要給水施設への配水管26.7kmを平成27～41年度までに更新してまいります。なお平成28年度末で3.3kmが耐震化完了となります。

◇基幹管路耐震化(平成29～38年度)

創設当初に布設し、約40年を経過している口径350mm以上の配水管41.9 kmについて、今後想定される大規模地震等の被害を最小限に抑えるため平成29～38年度までに更新を行ってまいります。

基幹管路の耐震適合率

	基幹管路 総延長	耐震適合性のある管(※2)の延長		耐震適合率	耐震管の割合
		耐震適合性のある管(※2)の延長	耐震管の延長		
山武水道	51km	28km	11km	54%	22%
全国(※1)	98,341km	36,568km	23,174km	37%	24%

※1 管路延長は平成27年度の全国合計値

※2 耐震適合性のある管とは耐震管と耐震管以外で地盤沈下により耐震性があると評価できる管



耐震性に優れた水道管(ダクタイトイル鉄管)
「一般社団法人日本ダクタイトイル鉄管協会」提供

災害に備えましょう！ ～非常用飲料水は各自で備蓄する習慣を～

災害はいつ起こるか分かりません。時には、甚大な被害をもたらす私たちの生活に大きな影響を与えます。

山武水道では、ライフラインである水道が断水しないよう全力で施設の維持管理に努めておりますが、災害等で配水管の破損などが起こった場合、完全復旧には大変時間がかかると考えられております。

このような場合に備え、ご家庭でも非常用飲料水を備蓄する習慣をつけましょう。

◇非常用飲料水備蓄量の目安

人が1日に必要とする水分は、約3リットルといわれております。災害に備えて3日分の飲料水を備蓄しましょう。

◇非常用飲料水の備蓄方法は

清潔でフタのできる容器(ペットボトルの空き容器など)を用意し、口元いっぱいまで水道水を入れ、ほこりや雑菌が入らないようにしっかりとフタをしましょう。

保存場所には、日の当たらない涼しいところを選びましょう。

上記方法で保管した場合、消毒用に入れてある塩素の効果は3日ほど持続しますので、その間は飲用することができます。保管する水道水は3日に一度は入れ替えて、古くなった水道水は洗濯や掃除などに利用してください。

なお、家庭用浄水器では、残留塩素を取り去ってしまうものがあります。残留塩素が減少した水は保存には向きませんのでご注意ください。

～お風呂の残り湯の再利用を～

災害時に水が出なくなったとき、トイレに使用したりいろいろな用途に利用できます。また、事故が起らないようお風呂にはフタをしておきましょう。

計算してみよう！

お客様の家庭では

人×3L×3日=L

の水が必要です。



4人家族が1日に必要とする水量の例
(2Lのペットボトル6本=12L)

貯水槽水道の適正な管理を行いましょ！

貯水槽水道(受水槽・高置水槽を通して給水しているビル・アパート等の給水施設)は、水道法等で設置者の責任により適正な管理を行うことが義務付けられています。

貯水槽水道の設置者、所有者又は管理者の方は、以下の基準に従い、管理を行ってください。

- 1年以内ごとに1回、水槽の清掃を行ってください。
- 貯水槽の亀裂や漏水がないか、ふたに鍵がかかっているか、防虫網が破れていないか点検してください。
- 1年以内ごとに1回、「色・濁り・におい・味・残留塩素」の検査を行ってください。

詳しくは、山武水道公式ホームページをご覧ください。か業務課給水班までご連絡ください。

【問い合わせ先】業務課 給水班 ☎0475(55)7853

